No.3432
第3750回例会
令和４年８月31日

OBIHIRO ROTARY CLUB
DISTRICT 2500

方針「グレート・リセット　未来へ！」　会長　竹川博之

2022－23年度国際ロータリーのテーマ　イマジン　ロータリー

■会長報告　　竹川　博之 会長

コロナ禍の中、多くの方にお集まり頂きまして、有難うございます。2点、会長報告させていただきます。

まず1点目です。昨日、メールにてR1会長のジェニファー・ジョーンズさんより、メールが届いております。DEIについて、各クラブで実践いただきたいという内容でした。7月の年度スタート前にも、何度かメール頂いたのですが、新年度2か月たって再度届くという事は、R1会長がとても気にかけていらっしゃるテーマだとの認識の下、再度お伝え致します。

Diversity　（多様性）
Equity　（公平性）
Inclusion　（包摂性、排除しない）　の3つです。

DEIの行動規範は、ロータリー会員に以下のことを求めています。

・他者を尊重する言葉を使う。
・サポートを示す
・温かく迎え入れるインクルーシブな環境を助長
・多様性を重んじる

次に2点目です。今月は、会員増強及び新クラブ結成推進月間でもあります。新クラブ結成推進月間について、お話しさせて頂きます。

2016年のR1の規定審議会の決定により“柔軟性の導入”が図られました。これによりクラブの運営全般に亘り、例えば、例会の回数、時間、会費額、その他運営等につき、各クラブの判断が尊重される事になりました。これを受けて、例えば月1回で年会費も低額等の新クラブの創設が可能となります。そして奉仕の理念を達成する参加者基盤として、新クラブを仲間として迎え入れ、共に実践する事となります。つまり、組織目的をグループで達成する事となります。釧路北クラブでは、すでに地域社会の多くの人々を巻き込んだ新クラブが始動しております。

奉仕、親睦、学びの3つのテーマの濃淡をよく考えて、今後、当クラブにおいても、新クラブの創設が必要ではないかと考えます。以上で会長報告を終わります。

■会務報告　　櫻井　博一 幹事

①帯広西RC、家族野遊会開催のご案内
　日　時　9月11日（日）午前10時
　場　所　おびひろ動物園他
　※尚、9月8日（木）の繰り下げ例会と致します。
②帯広東RC、移動例会開催のご案内
　日　時　9月13日（火）午後0時30分
　場　所　大和雑穀㈱芽室工場
③帯　広RC、家族野遊会開催のご案内
　日　時　9月18日（日）午前10時（9:40受付開始）
　場　所　グランピングリゾート フェーリエンドルフ
　バ　ス　9:00「ホテル日航ノースランド帯広」集合（乗車される会員）
　※尚、9月14日（水）の繰り下げ例会と致します。
④帯広南RC、9月19日（月）の例会は、祝日のため休会と致します。
　帯広北RC、9月23日（金）の例会は、祝日のため休会と致します。
　帯　広RC、9月28日（水）の例会は、休会と致します。
⑤RI第2500地区大会（旭川）開催のご案内
　日　程　10月8日（土）～10月9日（日）
　場　所　旭川市民文化会館　他　※詳細別紙参照

《大会1日目（8日㈯）》

記念親睦ゴルフ大会	8:00～	大雪山カントリークラブ
会員研修セミナー（3年未満・女性会員）	13:00～	アートホテル旭川

《大会2日目（9日㈰）》

登録受付	9:00～	旭川市民文化会館
本会議（午前の部）	10:00～12:00	〃
本会議（午後の部）	13:00～16:20	〃
大会記念大懇親会	17:30～19:00	アートホテル旭川他

※登録料：14,000円、記念親睦ゴルフ：5,000円、会員研修セミナー：3,000円

■新会員紹介　　会員増強委員会　石山 委員長

㈱十勝毎日新聞社　代表取締役社長
林（はやし）　浩史（ひろし） 会員
（推薦者：竹川　博之 会員）

■委員会報告

・ニコニコ献金　　（親睦活動委員会）

東京銀座ロータリークラブ　村山　陽 様
　たまたまこのホテルに泊っていました。メーキャップできてニコニコです。

竹川　博之 会員
　林　浩史 会員を入会させて頂きます。宜しくお願い致します。

林　浩史 会員
　本日入会いたします。よろしくお願いいたします。

小田切義憲 会員
　本日新会員卓話にてお話をさせて頂きます。

吉岡　央 会員
　本日新会員卓話を行わせていただきます。よろしくお願い致します。

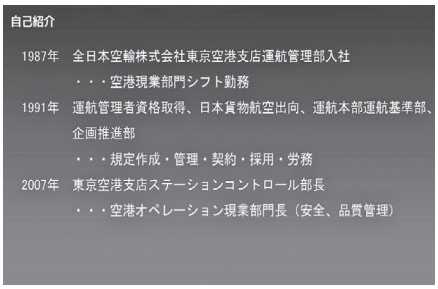
玉木　健 会員
　本日、卓話で話させていただきます。

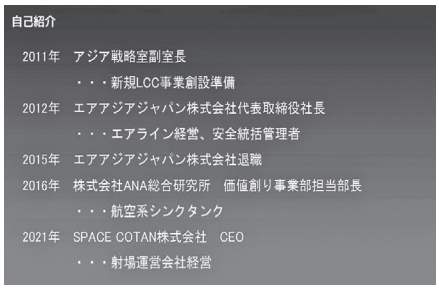
栂安　雅満 会員
　先日、真宗協会光南病院のゴルフコンペに参加し、シニアティーからではありましたが、自己ベストタイの68のスコアが出ました。8回目のエージシュートです。

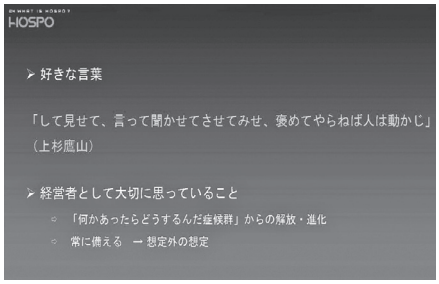
小林　光樹 会員
・帯広第一病院のコロナクラスターが解消しました。ご心配おかけしました。
・北海道マラソン完走できました。ありがとうございました。

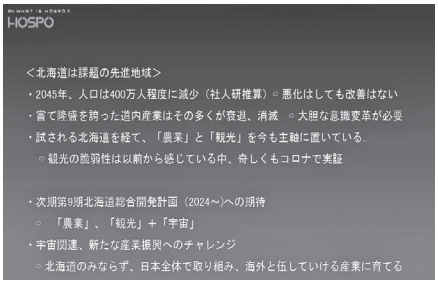
■プログラム　「新会員卓話」　　（プログラム委員会）

小田切義憲 会員

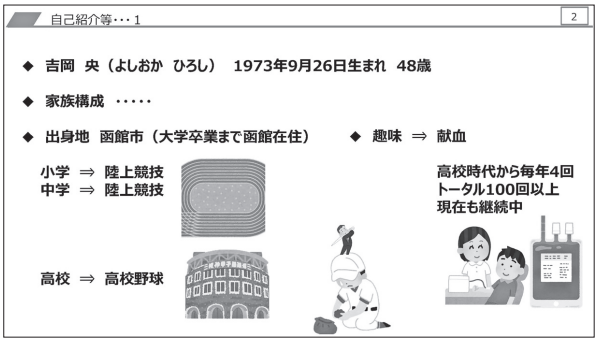


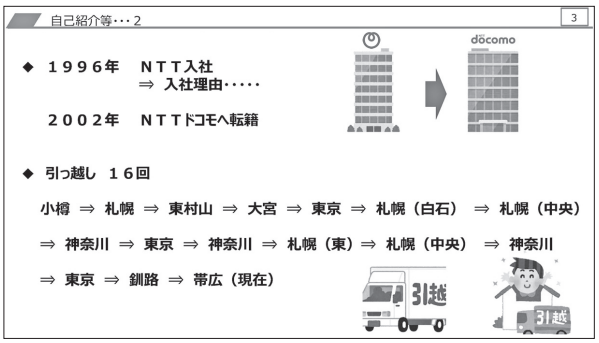


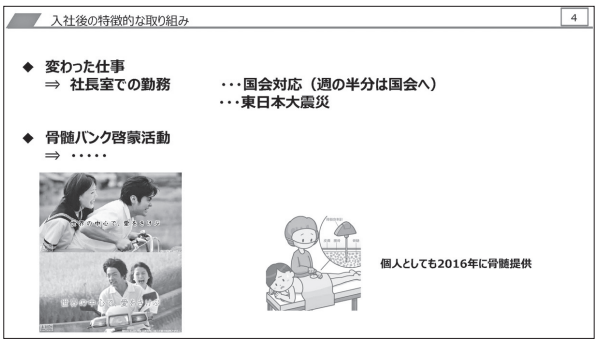




吉岡　　央 会員







玉木　　健 会員

皆さん、こんにちは。北海道新聞帯広支社長の玉木です。本日はこのような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。皆さんがスライドを使って分かりやすく、お話されているところ、根っからのアナログ人間なもので、耳だけ、こちらに傾けていただければと思います。少しの間、お付き合いください。取材現場の裏話を交えて自己紹介させていただきます。

私は1963年に小樽で生まれ、法政大学法学部を卒業後、3年半回り道をして1988年秋に道新に入りました。昭和最後の入社です。正確に言うと、新卒の年に入社試験に落ちて事務機器の営業の仕事などに就いたのですが、毎年転職を繰り返し、新聞記者への思いを断ち切れず、道新が初めて行った中途採用を受けて記者になりました。よほど人が足りなかったのか、作文と面接だけの試験が幸いして合格できました。

幼いころから刑事ドラマや事件記者などの警察小説が好きで、刑事に迫って事件の真相を追う「サツ回り」の姿にあこがれていました。抜いた、抜かれたと、記事の優劣がはっきりする分かりやすさも自分の性格に合っていたようです。入社面接からサツ回りを熱望しました。

念願かなって初任地の釧路支社で道警釧路方面本部の担当になったのですが、想像と現実は大違いでした。ドラマみたいにかっこよくはいきません。刑事はとにかく口が堅い。ドラマのように記者にペラペラ捜査情報を話す刑事なんていません。出勤前や帰宅後、通称「夜回り」「朝駆け」といって、自宅まで押し掛けて情報を取ろうとするのですが、玄関先で2、3時間待ってやっと接触できても、ほとんどは「何もないよ」で終わりです。同情を引こうと、車から降りて、わざと頭に雪をぺたぺたと乗せて、震えるふりをしていたこともありました。

しゃべらないならいい方で、刑事は平然とうそをつきます。「明日は何もないからゆっくり寝ていて」と言われて油断していると、早朝、夜勤者から「ガサが入ったみたいです」と電話が来て、他紙を開くと「今日逮捕へ」とドーンとやられているわけです。会社でキャップやデスクから「何やってたんだ」と叱責を受けているうちに夕刊でまた抜かれる。最初はそんな感じでした。

それでも半年、1年通って事件の現場で長時間一緒にいたりするうちに、かわいそうに見えるのか声をかけてくれる刑事も1人、2人できてくるんです。署内のトイレで立小便をしていると「こんなところにいていいのか」とか「北の方が騒がしいぞ」なんてヒントをくれる、そういう人と関係を築いて少しずつ情報を聞き出す。断片情報をジグソーパズルのように当てはめていって、最終的に幹部や当事者からウラをとりスクープにつなげます。

もう少しで特ダネになると思っても、運悪く発表されたり、ネタ元に「まだ書くな」と言われて待っている間に他社に出し抜かれたりなんて日常茶飯事です。

気の遠くなるような地道な作業を続けても、1面や社会面トップになったスクープは数えるほど。10年ほどのサツ回りの間に10回あったかどうかです。

釧路で3年すごして、念願の本社社会部（現在の報道センター）の道警担当に配属になりました。当時は事件事故が多く、93年には200人が亡くなった北海道南西沖地震、キャップになった95年には函館空港ハイジャック事件、翌年の豊浜トンネル崩落事故など全国区級の事件事故が続き、忙しい中でもやりがいを感じて若さで乗り切っていました。

サツ回りを長くやっていると、確実に性格が悪くなります。何度も刑事にだまされていると猜疑心が強くなり、家族に対しても理詰めで問い詰めるといった行動が多くなって嫌われます。今振り返ると、全く家庭を顧みない生活でした。長男と次男が10歳くらいまでの時期でしたが、子供のことは全て奥さん任せ。たまの休日にファミレスに行っても、メニューを見ているところでポケベルが鳴って呼び出されたこともありましたし、何年ぶりに行った運動会も肝心の家族での昼食の時にはもういないといった感じでした。今でも飯、風呂、トイレ、行動が速くせっかちという癖が抜けません。妻は「あんたと出かけてもあずましくない」と言って、時間に余裕のできた今もなかなか一緒に行動してくれません。

こんなことばかり言っていると、新聞社はブラック企業の典型のようですが、誤解のないように申しますと、今は休日もきちんと取れますし、労働時間の短縮にも取り組んでいます。それでも、急な呼び出しが多く予定が立たないことが今の若い人たちに嫌われて、記者を希望する学生は減っています。

入社から34年、大半をニュースの最前線で携わってきましたが、この間、通信、情報伝達の手段は格段に進歩しました。列車に原稿を載せて札幌に送っていた時代から、FAXになり、ポケベル、メール、携帯電話の時代になり、取材、執筆もこうしたツールを使って著しく進歩しています。

ニュースも紙から電子版に移りつつあります。紙面の締め切り時間を意識して特ダネを出稿するよりも、他紙に知られても一刻も早く電子版に載せて読者に読んでもらうことを優先する時代に変わりました。

その一方で、便利な時代になるほど感じることは、若い記者の足腰が弱くなってはいないか、取材へのこだわりが薄らいではいないかという点です。前職の報道センター長として直前までかかわってきましたが、4月に起きた知床の観光船沈没事故では4カ月たった今なお12人の方々が行方不明で、名前さえ発表されていません。あれだけの大惨事でだれが乗っていたのかさえ、知らされていないのです。時間がたっても、人々の心から事故を風化させてはいけない、あの日、何があったのかにこだわって報道を続けていく姿勢が大切です。

この十勝でも、コロナ禍にあっても新しい取り組みや挑戦が続き、人が動いています。そうした人に会って動向や狙いを紙面にしていく。先週の竹川会長のお話にもつながりますが、人と出会って信頼関係を築き伝えていくことが新聞記者の仕事です。年寄りの小言のようですが、こうしたことを今、社内で言い続けています。皆様のところに記者が伺った際も、邪魔くさい、しつこいと思っても、どうか一緒に十勝を、北海道を盛り上げていくという思いで、道新、勝毎問わず取材にお付き合いいただければと思います。本日はありがとうございました。

■出席報告　　**（出席委員会）**

8月31日例会分
会員総数:87名（内　免除会員3名）
出席者数:53名（内　Zoom参加者4名）
本日の出席率:63.1%

■次週プログラム予定

9月7日（水）「新会員卓話」　　（プログラム委員会）
林　　淳也 会員・鈴木　正信 会員・松岡　準志 会員

↑携帯サイトができました。バーコードリーダーで読み込む事ができます。

例会日 / 水曜日 12:30 ～ 13:30　　例会会場 / ホテル日航ノースランド帯広　TEL0155-24-1234
●創立 / 昭和 10 年 3 月 15 日　●認証番号 /3820　●戦後再開 / 昭和 25 年 12 月 19 日
●事務局 / 帯広市西 3 条南 9 丁目 経済センタービル 4F　TEL0155-25-7347　FAX0155-28-6033
●発行 / クラブ広報
●委員長 / 千葉　直樹・副委員長 / 五十嵐聖二・玉木　健
委　員 / 内木　敬典・荒井　純一・成田　浩之
●ホームページアドレス http://www.obihiro-rc.jp